

「ベンガルールの新たな優遇政策 「Karnataka GCC Policy」とは？」

米国公認会計士。税理士法人及び米系企業経理部門での経験を経て、2012年に南インドのチェンナイに移住し、現地でのコンサルティング会社を設立。中小企業の会計・税務アドバイザー等多くの支援実績を持つ。現在はベンガルール在住。



(1) GCCとは？

GCC（グローバル・ケパビリティ・センター）とは、研究開発やマーケティング、サプライチェーンマネジメント、リスクマネジメントなどの上流工程を担う拠点として設置されるもので、現在インド国内には1,700を超えるGCCがあって、その30%超にあたる500以上のGCCがベンガルールがあるカルナタカ州にあると言われています。カルナタカ州政府は2029年までにこれを1,000まで倍増させる目標を掲げており、2024年9月にはGCC特化の優遇政策『Karnataka Global Capability Centre Policy 2024-29』を発表しました。

(2) Beyond Bengaluru (ビヨンドバンガロール)

この優遇政策は①人材、②エコシステム、③インフラ、④法規制という4つの柱に対するインセンティブを、ベンガルール市内の企業と、それ以外の地域「Beyond Bengaluru」の企業、という2つの区分の企業に対して提供しています。特に「Beyond Bengaluru」の企業に対してはより手厚いインセンティブが設計されている点も特徴として挙げられます。「Beyond Bengaluru」の中でも特に注目すべき街がトゥムクルとマンガロールです。

トゥムクルはベンガルールからも車で2時間程度で行ける街で、もともと食品加工業の集積地として発展していましたが、最近はスマートシティ構想として選ばれた街の1つとして、ハイテク産業分野におけるインフラ整備が進んでいます。また、ここにはJapanese Industrial Township (JIT) と称する日本企業向けの工業団地が開発されていて、すでに日立アステモやブラザー工業などの日本企業も進出しています。

また、マンガロールはアラビア海を望む港湾都市で、生鮮食品加工業やインド国内のコーヒー豆や木材、カシューナッツの輸出量が多い街としても知られていますが、コグニザントとかインフォシスなど多くのITサービス企業がソフトウェア開発拠点を構えている

IT都市としても知られています。つまり、ベンガルールに対する州内第二の製造拠点と言えばトゥムクル、州内第二のIT拠点と言えばマンガロールという位置付けとなります。

(3) GCC特化の優遇政策の具体的な内容とは？

GCC特化のインセンティブは4つの柱に基づいて提供されていて、それぞれの概要は下記のとおりです。

- ①人材に関しては、スキルトレーニングやインターン生受け入れにかかる費用補助、採用支援
- ②エコシステムに関しては、設備や技術投資補助、ラボやオフィススペースにかかる費用補助、イベント開催にかかる費用補助
- ③インフラに関しては、オフィスの賃料や電気代や固定資産税の補助に加えて、社会保険料やインターネット通信費用の補助、コワーキングスペース運営事業者に対する補助、研究開発のインフラ投資にかかる補助
- ④法規制に関しては、ヘルプデスク機能の提供、品質認証や特許出願にかかる費用補助

GCCにご興味を持たれた方は下記リンク先にて詳細をご確認いただければと思います。

<https://hiwave.or.jp/panf/Draft-KarnatakaGCCPolicy2024-2029-.pdf>

(英語表記)



(出所) カルナタカ州ホームページ